

YOKOSO! JAPAN大使 (平成21年2月17日任命の12名)

あだち たかのり
足立 隆則 氏【(財)足立美術館理事長・館長】

日本庭園を通じた日本文化の発信と訪日外国人を対象とした受入環境の整備

足立美術館(島根県安来市)は、広大な日本庭園を構築し、徹底した維持管理による造形美が外国人に高く評価されている。アメリカの日本庭園専門誌による日本庭園ランキングでは2003年から6年連続で1位に選出され、日本庭園を通じた日本文化の発信、外国人誘客に貢献している。同館では1992年から訪日外国人を対象とした入館料割引を実施するなど、いち早く外国人誘客の取り組みを開始した。2006年には全国の美術館で初めて「ビジット・ジャパン案内所」(外国人対応日本観光案内所)の指定を受けており、同館の2007年度の外国人入場者数は、2003年度の実績と比べ約5倍の8,221人となっている。



いちだ
市田 ひろみ 氏【服飾評論家】

きものを中心とした日本文化の情報発信

京都市観光協会副会長や「京都おこしやす大学」学長を務め、京都を中心に観光振興やホスピタリティの向上、誘客促進と併せて受入体制整備に尽力している。また、2008年には洞爺湖サミット配偶者プログラムにおいて十二単の着付けの披露・解説等を行い、日本文化の発信と交流に貢献した。さらに、アメリカ、フランス、デンマーク、中国、カナダ、ブラジル、メキシコ、ドイツ、イタリアなどの101都市でのきものショーの企画・出演に加え、民族衣装を求めて訪れるアジア、アフリカ、中南米の村々でも交友関係を広げ、服飾を中心とした日本文化の情報発信・交流に努めている。



きむら かずまさ
木村 和雅 氏【京都シルク(株)代表取締役】

外国人の喜ぶ日本のお土産の開発を通して日本の魅力を発信

30年以上にわたり、外国人に喜ばれる日本のお土産を開発・販売し、日本の魅力の発信に貢献している。これらのお土産は、ビジット・ジャパン・キャンペーン「魅力ある日本のおみやげコンテスト」において、2006年から3年連続で表彰されている。京都で経営する店舗では多言語が話せる販売員の配置や、多種の外貨の利用を可能にするなど、訪日外国人のニーズを踏まえ、受入体制の整備を図っている。更に、各国の旅行博覧会に積極的に参加し、日本の魅力を伝え訪日外国人の誘客に積極的に取り組んでいる。



こう い
孔 怡 氏 (中国)【テレビ・ラジオパーソナリティ】【国際文化交流アドバイザー】

テレビ・ラジオを通じて日本観光の情報発信、アジア観光客の受入体制整備

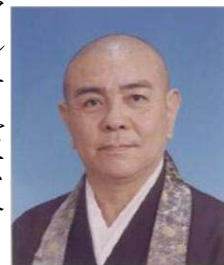
上海のラジオ局で日本滞在談コーナーを持ち、関西の情報などを伝えることによって、日本への誘客促進に貢献している。また、関西各地で開催されるアジア観光客の受入体制を考えるフォーラム、講演会等において中国人市場の特性についてのアドバイスを行い、相互理解の普及に努めるほか、ビジット・ジャパン・キャンペーン地方連携事業に参加し、日本の観光情報の発信を行っている。更に、大阪観光コンベンション協会における「外国人観光客対応マニュアル」作成や「ひとり歩き点検隊」に参加し、外国人から見た受入体制整備に取り組んでいる。



ごとう てんしょう
後藤 典生 氏【高台寺常任教師】

京都の寺社の新鮮な取り組み、日本文化やもてなし「和」の魅力情報発信

経済産業省・国土交通省の「ラグジュアリー・トラベルマーケット調査事業」のアドバイザーとして仏閣、伝統工芸等の助言を行い、2007年にフランス・カンヌで開催された「インターナショナル・ラグジュアリー・トラベルマーケット」のオープニングパーティーにおいて「和」の魅力を紹介し、訪日外国人誘客促進に貢献している。非公開であった高台寺を1989年に一般に公開し、2007年の来訪者は80万人を超えている。1994年に同寺院が京都の寺社にさきがけて開始した夜間のライトアップは他の寺社にも広がりを見せ、訪日外国人にとって夜の京都の観光資源として欠かせないものとなっている。



たかはし まさみ
高橋 正美 氏【富士箱根ゲストハウス代表】

「出会い、ふれあい、学び合い」を重視した外国人観光客の受入れを推進

箱根で経営する宿泊施設において、過去24年間に世界70カ国から10万人を超える外国人観光客を受入れて日本文化を紹介する一方、地元の小中学生を対象に、外国人の来訪を歓迎する心を育む巡回教育を実施するなど異文化交流と国際教育の普及・啓発に努めている。さらに、地域再建をめざす実学講座の開催や産学官の連携によるインターンの受入れ、国際観光に関する講演活動や調査研究にも取り組んでいる。この実践は、2008年7月、米国Cornell大学他が実施したアジア全域を対象とするホスピタリティー産業調査においてThe Best Practice Championに選ばれている。



たき ひさお
滝 久雄 氏【(株)ぐるなび取締役会長・創業者】

飲食店検索サイトを多言語で運営、日本の食文化の魅力を海外へ発信

海外旅行の目的の大きな割合を占めるのが「食」であり、「食」に繊細なこだわりをもつ日本の国民性から、訪日外国人の「食」に対する期待は大きい。13年前に同氏が立ち上げた日本最大級の飲食店検索サイト「ぐるなび」は、「食」に関するきめ細かいリアルタイムの情報サービスの提供により、月間8億5千万ページビュー、月間ユニークユーザー数1,800万人、詳細情報掲載店舗数6万2,000店に拡大。その情報力を活かし、訪日外国人を対象とする4カ国語(英・中国簡体・中国繁体・韓国)による情報提供をウェブおよびガイドブックで提供しており、同社が得意とする食の情報に関する分野での訪日外国人の受入体制整備と食文化の情報発信に大きく貢献している。



つじむら しょうこ
辻村 聖子 氏【(社)日本観光通訳協会副会長】

通訳案内士の育成、通訳案内士制度の普及促進に貢献

日本観光通訳協会の副会長として研修会や講習を実施し、模範ガイディングの他に、危機管理、ガイドの心得などの講師を務め、通訳案内士の育成に尽力している。更に全国の講演会等において通訳案内士の仕事の紹介や制度への理解を広く求めることにより制度の普及促進に貢献している。このほか、外国人の労働や学校、住居といった生活に密着した悩みの相談を通して草の根的な国際化にも努めるなど、行政・NPO団体・大学・民間活動団体など様々な分野での活動を通して訪日外国人の受入体制整備に長期取り組んでいる。



なかむら ゆたか

中村 裕氏【(株)ロイヤルパークホテル取締役会長】【日本ホテル協会会長】

ホテルと地域との連携による受入体制整備、外国人利用者の利便性向上

ホテル周辺地域の飲食店に対し、メニューの英語化、電話による接客補助や英会話レッスンを無料で行うなど、地域と連携した訪日外国人受入体制の整備に努めている。また、首都圏都市型ホテルで初めてとなる多言語に対応したセブン銀行のATMの設置や、「ぴあ」との業務提携による相撲や歌舞伎などのチケット発券のための端末機の設置など、社内外における訪日外国人受入体制整備の推進に取り組んでいる。これらの活動は、ホテル業界における訪日外国人誘客促進の活動の良きお手本となっている。



べつしょ てつや

別所 哲也氏【俳優】【ショートショート フィルムフェスティバル代表】

ショートフィルムを通じた文化交流と誘客に貢献

若手映像クリエイターの夢への第一歩として認識されているショートフィルムにいち早く注目し、1999年に日本発の国際短編映画祭「ショートショート フィルムフェスティバル」を主宰する。同イベントは、1999年からの10年間で全国13都市、海外4都市にて開催され、各国からの参加者も含め20万人以上の観客を動員し、2004年には米国アカデミー賞公認映画祭に認定された。また、2004年からはアジア各国のショートフィルムを紹介する「ショートショートフィルムフェスティバル & アジア」も東京で同時開催され、アジア各国をはじめとした世界中の人々との交流の場を作り出し、誘客促進に大きく貢献している。



みなみ よういち

見並 陽一氏【東日本旅客鉄道(株)常務取締役】

空港駅での外国人旅行センターの設置や商品の開発による旅行環境の整備

早くから訪日外国人誘致の重要性を認識し、JR東日本本社内に「観光政策・インバウンド」プロジェクトチームを発足させたほか、「JR東日本外国人旅行センター」の設置、訪日外国人向け旅行商品の拡充、海外向けインターネット指定席予約サービスの開始等の取り組みを推進し、同社におけるインバウンド事業の礎を構築した。同氏が担当常務として開発に携わった「Suica&N'EX」は、発売開始から2年足らずで累計17万枚を売り上げている。さらに、伊豆急行や北越急行、東武鉄道との提携を実現し、外国人向けフリーパス「JR East Pass」の利用可能エリアの拡大やEチケット引換証の導入等、訪日外国人の利便性向上に貢献している。



やはた さとこ

矢幡 聡子氏【CORE S LTD.代表取締役】

テレビ、雑誌等のメディアやイベントを通じ国際交流を促進

アート、カルチャー、トラベルの各分野における国際文化交流事業やPRなどのメディア・プランニング業務を行っている。1993年にフランス映画祭を立ち上げ、毎年フランスから著名な映画監督・俳優を招聘するなど、長年にわたって、テレビ、雑誌、イベントなどを通じて、海外交流の促進に尽力している。また、1994年より京都人による京都の新しい価値の掘り起こしをテーマに、京都の文化を紹介するイベント「にっぽんと遊ぼう」のオーガナイザーを務め、日本人はもとより広く海外からもゲストを招聘し、国内外からの誘客に努めている。



(備考) 氏名の次の括弧()内は国籍。ただし日本国籍の場合は記述していない。